

部活や研究に情熱を注ぎ、有意義な学生生活を送っている様子を取材しました。

常三島キャンパス

## 「人より勉強して、人より遊んで、人より働こう」と決め、やりたいことを全部やりきった学生生活

大学院創成科学研究科 理工学専攻 博士前期課程 2年 西垣 佑哉 (にしがき ゆうや)



西垣さんがアルバイトをしている『OHANA FOOD TRUCK (オハナフードトラック)』。ホットドッグと阿波尾鶏サンドを販売していて、常三島や蔵本キャンパスにも来ています。

大学院で自然言語処理を研究する西垣さんは、修士論文のため、レビューから評価点を予測するシステムを開発しています。例えば楽天トラベルの場合、楽天トラベルを通して宿泊した会員が満足度を5段階で評価し、その平均値が★の数で表示されます。楽天トラベルではコメントを投稿することもでき、★の数やクチコミは他のユーザーが宿泊施設や旅行プランを選ぶ際の参考になり、サービス改善にも役立てられています。現在、西垣さんの研究では3段階評価だと約80%の確率で算出可能。「さらに精度をあげ、将来的にはSNSの投稿からも評価点を算出できるようにしたい」と話します。

修論作成の傍ら、バーやキッチンカー、

イベントなどのテント販売のアルバイトも。責任者として売上管理も任されていて、やりがいを感じているといいます。この他、バイクで本州を一周するなど、様々な人と出会い、そのつながりを大切にして充実した学生生活を過ごせたという西垣さん。入学当初から「人より勉強して、人より遊んで、人より働こう」と決め、行動した結果と振り返ります。こうした経験をいかし、IT企業のデジタルマーケティングディレクターの内定を獲得。また新たな道を歩み始めます。



蔵本キャンパス

## 「脳科学クラスター」や「脳科学サークル」にも参加 異分野との共同研究も始まり、研究のおもしろさが加速

大学院薬学研究科 薬学専攻 博士課程 1年 岩本 緋天 (いわもと ひてん)



昨年は「第63回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会」に参加。

岩本さんは、神経病態解析学研究室に所属し、パーキンソン病のモデルマウスにおける精神疾患治療薬の薬効について研究を進めています。「薬学部では臨床の機会が少ないため、医学部の脳神経系の先生方が集まる『脳科学クラスター』や、徳島大学病院パーキンソン病・ジストニア治療研究センター副センター長である森垣龍馬先生(医歯薬学研究部先端脳機能研究開発分野 特任教授)が主催する『脳科学サークル』に参加しています。症例に関する話を直接聞けるのは、研究の大きな参考になります」と語ります。

最近では、理工学部 物質機能化学分

野の水口仁志教授との共同研究にも取り組んでいます。「水口先生はもともと脳神経系の専門ではありませんが、共同研究をきっかけに脳科学クラスターに参加されるようになりました。私たちがマウスにマイクロダイアリシスの装置を装着し、脳内のドパミンなどをリアルタイムで測定する作業を水口先生が担当しています。異分野の研究室と連携できるのは、徳島大学ならではの魅力だと感じています」。現在は、脳科学クラスターでの研究発表に向け、準備を進めているとのこと。「将来的には、国際学会での発表や海外留学にも挑戦してみたい」と、夢を膨らませています。